対馬開催の天皇賜杯県大会に対馬は４チームが参加

対馬の予選会も高松宮賜杯１、２部に、国体の壮年と成年２部が４月19日までに一応終わった。高松宮杯２部の準決勝以降は雨天により５月17日に順延したが、その結果は既に記した。

４月の第４週日曜日は４月26日。この日に厳原町地区を除く３地区では対馬で開催する天皇賜杯長崎県大会の地区予選会がある。

天皇賜杯予選会を初めて開催したのは昭和61年で、峰野球場記念大会が５回目となって発展してから天皇杯対馬予選会となった。

平成５年から、県連盟登録20チーム以上は天皇杯と国体成年に２チーム参加できる特典を生かして、対馬予選会は８チーム参加として決勝戦を行なわず２チームの代表が県大会に出場してきた。

ところが、この年の天皇賜杯を対馬軟式野球連盟創立50周年記念として県連理事会で誘致した。理事会で開催が決定してから、対馬からの理事である吉野徹は『事のついで』に次の発言をした。「記念事業として開催するので、従来２チーム参加を対馬４地区に分けた４代表を県大会に参加させたいが…」と。16支部から長崎、佐世保、諫早が２チーム参加して、対馬の４を加えて22チーム。

試合数は21であり、厳原、美津島の両野球場に対馬高校グラウンド(初日のみ)を使用すれば、三日間で全21試合を消化できる。難敵は天候であるが、これも過去４年間の天気データで調べてから厳原測候所職員が『太鼓判』を押してくれた５月下旬に日程を組んでいる。

この発言にも、理解ある県理事からの発言が…「大賛成です!!」。かくして、対馬が４チーム参加の天皇賜杯県大会は吉野の思惑どおりに決定したが、運を天に任せた天候と…、次に気になるのは審判員…。生半可な気持ちでは天皇杯県大会の開催はできない。

県理事会に出席していた県審判協会の佐藤登事務局長も県連理事。また審判協会の松尾隆藤理事長や陶山裕介審判長も県連理事であり、理事会終了後にかねてより審判協会理事会で対馬から提案していた、県審判技術講習会の対馬開催…を再度お願いをした。

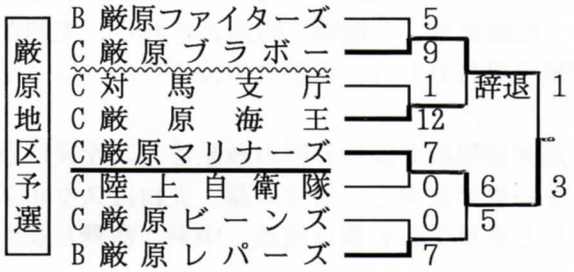
開催日は大村での県講習会後は各県大会の予選会が詰まっており、天皇杯県大会の２週間前の５月９日(土)に指導員各氏が来島して夜は座学。日曜日に実技講習会と決定した。

天皇賜杯の対馬予選会は、会場町である厳原町(登録８)と美津島町(同４)が町代表チームの出場として、豊玉町(同３)と峰町(同１)を中対馬地区に、上県町(同２)と上対馬町(同３)で上対馬地区の４地区代表を選出することに、２月15日に美津島町文化会館で開催した対馬軟式野球連盟理事会で承認決定される。

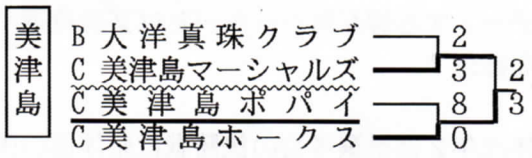
その各町予選会を、該当町野球協会の主管で開催したのが開幕してから６週連続目の４月26日。

但し、厳原町はこの日が町長選挙投票日で役場職員が出動するために、３月15日に一回戦４試合を行なって５月３日が準決勝と決勝戦となる。

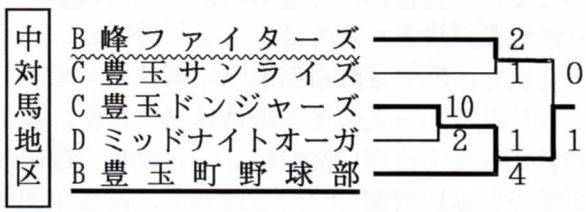
下がその各地区予選会の結果。

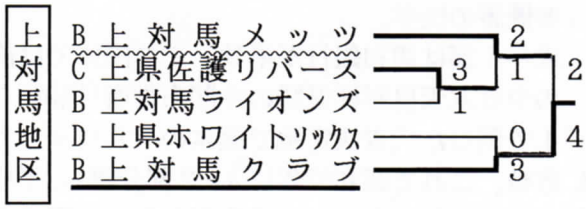


準決勝戦を海王が辞退したが、これは同チームがもし代表となったら…？。監督は対馬審判長の初村勝也。投手に一宮明博審判協会長に吉野徹連盟理事長。主将が審判員の原田初見で多田穣連盟会長も選手登録。県大会の運営に支障が出る…？ことから、勇気ある辞退であった。



中対馬地区はミッドナイトオーガの追加登録があってD級として参加した。(会場＝豊玉)





こうして対馬代表の４チームが決まった。